

授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図る指導の工夫  
—社会科自学ノートと基礎プリントの活用を通して—

糸満市立糸満中学校教諭 中山 宏美

## I テーマ設定の理由

### 学力向上対策「夢・にぬふぁ星プランⅡ」から

学力向上対策「夢・にぬふぁ星プランⅡ」によると、本県の課題として基礎的・基本的な知識、技能の定着とこれらを活用する力、主体的に学習に取り組む態度の育成が強く求められている。そして、教師個々が、日頃から子どもの変容を見届けながら、授業を改善し、「わかる授業」「参加する授業」「楽しい授業」を展開する必要性も示している。教師は「確かな学力の向上」の取り組みとして、学校や生徒の実態を踏まえた具体的な授業改善に日常的に取り組むことが重要である。

### これまでの実践から

暗記科目

本校の生徒の実態として、学習用具がそろっていない生徒やノートまとめが苦手、書くことが面倒、勉強方法がわからない生徒がいる。また、社会科を暗記科目として捉えていたり、塾で勉強して授業に集中しない生徒もいる。

教師主導型

しかし、これまでの授業実践では、高校入試の影響を考えるあまり教師主導で説明中心の授業展開が多く、個への対応や下位の生徒への意欲の喚起、基礎・基本の定着のための具体的な授業改善が出来ていなかった。また、毎時間、社会科自学ノート活用をしていたが、全員に徹底することが出来なかった。

### 本研究において

そこで、本研究では授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図るために、毎時間、社会科自学ノートや基礎プリントを活用する。

社会科自学ノート

社会科自学ノートは、学習内容のまとめと自学自習欄を書かせる工夫したものである。教師は、社会科自学ノートの点検・評価、毎回コメントを書いて生徒を激励したい。このような書く活動を繰り返す中で、基礎・基本の定着、書く意欲や成就感、粘り強さが身に付き、授業への参加する意識を高めることが期待できる。基礎プリントは、学習の基礎的内容をまとめた問題を解かせ、更に復習等にも活用することで、基礎・基本の定着を図りたい。

書く活動

基礎プリント

以上のことから、「社会科自学ノート」と「基礎プリント」の活用を通して、授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図る指導の工夫ができるであろうと考え、本テーマを設定した。

## II 研究仮説と検証計画

### 1 研究仮説

社会科の授業実践において、次のような見通しを持って指導すれば、授業に参加する意識が高まり、基礎・基本の定着が図られるであろう。

- (1) 社会科自学ノートを活用して、学習内容のまとめと自学自習欄を書かせ、教師が点検評価すれば、授業に参加する意識が高まるであろう。
- (2) 基礎プリントの活用で、基礎的内容をまとめた問題を解かせ、復習等で使えば、基礎基本の定着につながるであろう。

### 2 検証計画

事前調査で社会科学習における生徒の実態把握をし、それを基盤に検証授業を8時間程

度行う。授業の中で社会科自学ノートと基礎プリントの書く活動を通して、授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図る指導の工夫に有効かどうかを授業後のアンケート、事前・事後のテストの分析、実験群・統制群の比較で検証する。

	検証の場面	検証の観点	検証の方法
① 検証 授業	・社会科自学ノートと基礎プリントを取り入れた授業	(1)社会科自学ノートの活用は、授業に参加する意識を高めるのに効果があったか。 (2)基礎プリントの活用は、基礎・基本の定着を図るのに効果があったか。	・授業観察 ・社会科自学ノート ・基礎プリント ・授業後のアンケートの分析
② テ ス ト	・実験群と統制群の比較 ・事前（5月）と事後（7月）比較		・定期テスト、単元テスト ・事前・事後のアンケートの分析 ・自己評価
◎社会科自学ノートと基礎プリントの活用を通して、授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図るのに有効であったか。			①②の結果と事後のアンケート

### Ⅲ 研究内容

#### 1 授業に参加する意識を高め、基礎・基本の定着を図る指導の工夫について

##### (1) 授業に参加する意識とは

授業に参加する意識については、本研究において「授業に参加する基本的な姿勢・態度」と捉える。具体的には、学習前の準備や授業中の学習態度のことである。

「夢・にぬふぁ星プランⅡ」（県教育委員会、H 20）では、「確かな学力の定着」の②学習を支える力の育成（学習に向かう基本的な姿勢）の一つとして「学習の準備や態度の指導の工夫」をすることの必要性が示されている。

「参加型」

また、「確かな学力の向上」支援プラン（県教育委員会、H 20）では、「授業への参加意識と授業の楽しさは、「授業がわかる・できる」と密接に関連するとして、「参加型」や「楽しさ」を意識した授業において一人一人の児童生徒が「学習がわかる」という要素は重要であると示している。

「楽しさ」

「わかる」

日々の授業において、教科書やノート、筆記用具、資料等の準備ができ、座る姿勢や話を聞く態度、話し方、ノートの整理等がしっかりできる学習態度を徹底指導することは必要なことである。

##### (2) 授業に参加する意識を高めるとは

参加する意識

本県の児童生徒の学力課題の一つとして、主体的に学習に取り組む態度（学ぶ意欲）の育成が強く求められている。そこで、学ぶ意欲に関連する「授業に参加する意識」を高めることは重要である。

授業に参加する意識を高めるには、授業に参加する意識に深く関わる要素を把握することが求められる。関わる要素として、次のような①～⑥が考えられる。

- ① 自分のことは自分でする等、生活習慣が定着している。
- ② 学習の必要性、学習したことが役立つことが感じられる。
- ③ より良くなりたいと目標を持っている。
- ④ 先生・父母・友だち等から、認められたい気持ちがある。
- ⑤ 自分から進んでする態度がある。
- ⑥ 誘惑に負けないで、最後までやり抜くことができる。

本研究では、これらの要素を意識した学習指導で、学習前の準備ができ、積極的な学習態度が育つよう生徒を動機づけして、授業に参加する意識を高める工夫をする。

パターン化

### (3) 授業に参加する意識を高める工夫

社会科の授業への参加意識を低下させる要因の一つとして、教師の説明中心のパターン化された授業や暗記中心の授業があげられる。このような授業の改善のためには、作業的な活動や学習したことを活用する場面等を取り入れて、学習活動の多様化を図ることが大切である。

本研究では、授業に参加する意識を高めるために、社会科自学ノートを持たせて毎時間しっかり書かせ、ノートの活用法を工夫する。生徒には、粘り強く書くことや学習したことを課題解決に役立てる、進んでノートまとめを工夫する、ノートを提出する等を徹底させ、教師は点検・評価とアドバイスを確実にを行う。

基本(柱)

基礎(土台)

### (4) 基礎・基本について

図1で示すように、基礎とは学習内容を能力的視点(言語能力・数的能力)から捉えたものである。「読み、書き、計算の力」としての漢字、書写、計算等、学習の基盤(土台)となる知識・技能のことである。基本とは、学習の内容を教科・教材の構造的観点(概念・原理・法則)から捉えたものである。

社会科における基礎・基本とは、「学習指導要領に示された目標と内容の総体」であるが、基礎的・基本的な知識や概念が示されているわけではなく、教科内容を通して示されている。社会科の学習で身に付けるべき基礎・基本とは、「教科書の記述内容となっている知識を身に付けることと社会的事象を考察し、公正に判断することのできる資質や能力」と捉える。

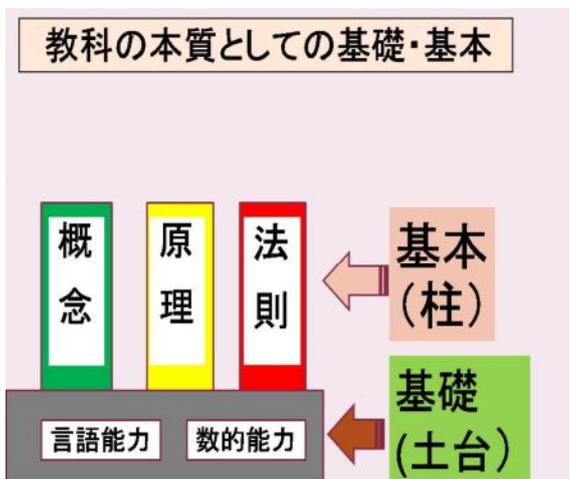


図1 教科の本質としての基礎・基本

不易

流行

北俊夫は、社会科の基礎・基本を固有性と共通性という視点と不易と流行という視点から、次のように捉えており、それを目標や学習活動に位置づけて子どもに身に付けていくということが求められているのではないかと述べている。

- 固有性と共通性・・・社会科でこそ身につけなければならないことと、社会科でも身に付けなければならないこと。”こそ”と”でも”がある。
- 不易・・・指導要領に一貫して示されてきた内容  
(日本の歴史・産業・地域社会の安全や内容について学習する等)
- 流行・・・社会の変化に伴って求められているもの  
(国際理解・環境・福祉に対する見方等)

### (5) 基礎・基本の定着を図るには

これまでの社会科の授業は、知識の暗記を要求し、覚えるということを中心に授業内容を構成してきた。そして、こうした学習が、社会科という教科に対する生徒の取り組む「やる気」を低下させるような問題があった。しかし、社会事象に対する基本的な枠組や制度の理解、歴史事象における時代の流れ、または地名、国名等の基本的な知識を習得する学習活動は重要である。そのために網羅的な知識を漠然と授業の中で提供するだけではなく、習得させたい内容を提示し、系統立てて反復的に学習させる必要がある。

そこで、本研究では習得させたい内容を「基礎プリント」にまとめて、解かせ、反復的に学習させる。

やる気

## 2 社会科自学ノートと基礎プリントの活用について

### (1) ノートを活用する意義

ノートの指導は、学習指導の補助的なものとして捉えがちであるが、ノートに書く活動を繰り返すことで、書く意欲や書く力、忍耐力が身に付く。また、思考作用を活発にし、考えを深めることにも効果がある。更に、授業内容を捉え直し、深めていく復習的かつ、予習的な家庭学習にも結びつけることができる。

横須賀 薫は、ノートの使用法として、①練習長的使い方、②備忘録的使い方、③整理保存的使い方、④探究的使い方の4つを代表的なものとして挙げている。本研究では、②③の使い方を中心に組み合わせ、④探究的使い方とする。つまり、毎時間、学習のまとめの板書を写して「記録」として残すことと、「記憶」を定着させるための反復作業としての使い方を中心にしながら、家庭学習や自学自習としても使うようノート指導を行う。

「自分のノート」づくりを指導するため、ノート整理の留意点として次の①～④が考えられる。

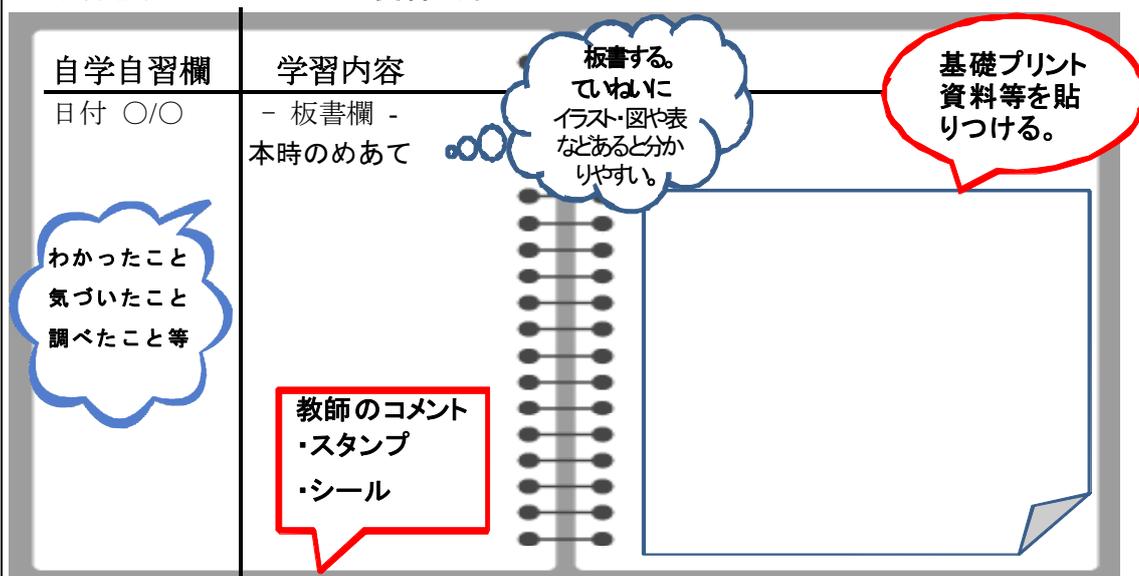
- ① 色分け、アンダーラインなどで重要なところを分かりやすくする。
- ② イラストや図、表などを使って分かりやすくする。
- ③ 配布された資料などは、ノートに貼り付ける。(基礎プリントの添付も確実)
- ④ ノート整理の基本的なレイアウトを示す。

### (2) 社会科自学ノートの構成と工夫

自学ノート

自学ノートの構成としてノートを3分の1に分ける。学習内容を書く欄には、本時のめあてや学習のまとめを書かせる。その時、イラストや図、表等を工夫して書き入れるようにする。自学自習欄には、授業中でわかったことや気づいたこと、疑問に感じたこと、調べたことを書かせる。更に、教師から出された課題について調べて書くこともある。配布した資料などもノートに貼らせ、いつでも復習できるようにする。

なお、ノートは定期的に提出させて教師が評価する。教師は点検・評価しながら全員にコメントを書いて賞賛や励ましをする。授業中にできなかった生徒の学習状況の把握と評価ができるし、教師のコメントを通して、個に応じた細かい指導ができる。きちんと評価し、コメントを書いたり、スタンプを押す、シールを貼ることで、生徒の学習意欲は大いに高まる(資料1)。



(資料1)「社会科自学ノート」

基礎プリント

反復的に学習

### (3) 基礎プリントについて

学習内容を定着させる観点から、基礎プリントを活用する。基礎プリントは、基礎的・基本的な知識や概念を一問一答形式（10問程度）でまとめたものである（資料2）。1時間又は2時間の授業のまとめの段階や単元のまとめで活用する。社会科は暗記科目ではないが、やはり知識として覚えて習得すべきことやしっかり理解すべき概念は多い。基礎・基本の定着には、基礎プリントによるリフレインを行い、反復的に学習させることは重要である。

基礎プリントの出題内容は、教科書の太字で記載されている重要語句や、本時の重要な概念などである。授業での活用方法としては、

- ① 学習したことをもとに自力で解く
- ② 教科書やノートを調べて解く
- ③ 全員で解答して確認する

となっている。評価に関しては、プリントをノートに貼らせて、取り組み状況をチェックする。

基礎プリント  
めあて：農産物の種類と用途が日本の農業発展に与える影響や、食糧自給率低下がもたらす問題について関心を高めることができる。

1. 三大穀物とは  
→
2. アメリカで行われている、大規模な農業を何というか。  
→
3. 温室やビニールハウスを利用して、花や野菜、果樹などを栽培する農業を何というか。  
→
4. 大都市周辺でみられる園芸農業を何というか。  
→
5. 畜舎や鳥かごなど、暖かい気候を利用して、出荷時期を早める栽培を何というか。  
→
6. 長野県や岩手県など、冷涼な気候を利用して、出荷時期を遅くさせる栽培を何というか。  
→
7. 国内で使った量に対して、国内で生産された量を割合であらわしたものを何というか。  
→
8. 関税や輸入量の制限をやめるなど、市場を開放することを何というか。  
→

資料2 基礎プリント

### (4) 社会科自学ノートと基礎プリント活用について

本研究においては、授業の展開で社会科自学ノートと基礎プリントを図2のように、活用する。自学ノートは、展開場面で本時の学習のまとめを工夫して書き、与えられた課題について調べる。そして、次時の導入で課題をもとに発表させ、学習を展開させる。基礎プリントは、まとめの段階で活用する。

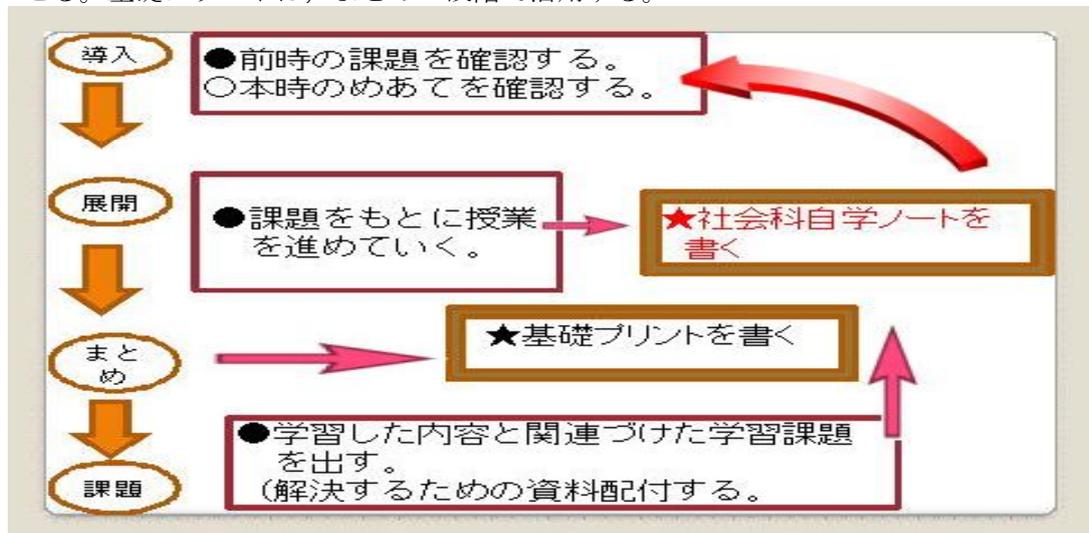


図2 授業展開と自学ノート・基礎プリントの活用

## IV 授業実践

- 1 検証計画（省略，8回実施）
- 2 単元名 世界と日本の資源と産業 新しい社会「地理」 東京書籍
- 3 単元について

- (1) 教材観（省略） (2) 生徒観（省略）
- (3) 指導観（前半部分省略）

本単元では、授業に参加する意識を高める取組みと基礎・基本の定着を図る指導の工夫をしたい。毎時間、社会科自学ノートに自主学習欄と板書欄を設け、本時のめあて、

授業内容、学習したことを実生活に関連づける課題まとめができるように工夫した社会科自学ノートを活用する。ノートは毎時間提出させたり、机間指導の中でコメントやスタンプなどを押し、激励や学習方法などのアドバイスをする。このようにノートの活用を粘り強く行うことで、学習に参加する意識を高めたい。また、基礎・基本を定着させるために「基礎プリント」を授業の中で活用する。活用については単元計画に位置づけ、前時、本時で学習する基礎用語を中心にした内容にする。そのプリントを反復的に学習させ、基礎・基本をしっかりと定着させたい。

#### 4 単元の指導の流れ・評価計画（全7時間）

時	めあてと 主な学習活動	ねらい（評価規準）	A十分満足 できる	C努力を要する 生徒への手だて	仮説の検証 検証方法
1	地球温暖化や新たなエネルギーの開発について理解する。	エネルギー消費量や電力構成のグラフを見て、日本などの先進工業国がエネルギーの大量消費国であることを読み取り、地球温暖化の原因やエネルギー消費のあり方に関心を高め、考えようとしている。	石油石炭鉄鉱石について、統計資料から上位3カ国を発表し、地図の記号と照らし合わせることができる。	既習知識を生かすように基礎プリントを書かせる。(反復的学習)	仮説(1) 社会科自学ノート 自己評価
2	エネルギー源の変化や将来のエネルギー問題について理解する。	鉱産資源の自給率グラフから、輸入に頼る日本の現状と資源開発の必要性を理解している。	環境保全を考慮した自然エネルギーについて理解を深める。	新しいエネルギーとはどのようなものがあるのか。写真資料から理解させる。	仮説(2) 基礎プリント 自己評価
3	工業生産は欧米中心であったが東アジアや東南アジア地域で急速に発展してきたことを理解する。	主な国の産業別人口の割合から、各国の産業の特色を理解している。	現在では、韓国や中国、マレーシアなど急速に発達していることが理解できる。	主な国の産業別人口の割合を読み取ることができるように地図帳で、国名を確認させる。	仮説(1) 社会科自学ノート 自己評価
4 本 時	日本は農産物の自給率が低い ため輸入に依存する割合が高く、安全性の問題など、様々な問題を抱えていることを理解する。	農産物の貿易自由化が日本の農業経営に与える影響や、食糧自給率低下がもたらす問題について関心を高め、これからの日本の農業あり方を具体的に考えようとしている。	自給率が低いのはなぜなのか、食生活の変化、貿易自由化など、様々な角度から考察できる。	施設園芸農業、近郊農業、促成栽培などが理解できるように、基礎プリントで確認させる。	仮説(2) 基礎プリント 仮説(1) 社会科自学ノート 自己評価
5	漁業国であった日本が「育てる漁業」への転換で、様々な問題を抱えていることを理解する。	近くに恵まれた漁場を持ち、世界的な水産国であった日本の遠洋、沖合漁業が伸び悩む要因を理解し、養殖漁業や栽培漁業のあり方に関心を持つ。	「育てる漁業」への転換で、様々な問題を抱えていることが理解できる。	養殖漁業、栽培漁業、沖合漁業、遠洋漁業などについて基礎プリントで確認させる。	仮説(1) 社会科自学ノート 自己評価
6	日本は、鉱産資源の自給率が低い ため、外国	日本が国際競争の波にさらされ、外国製品との競争などに関心をもち、日本の企業が	日本の企業が欧米やアジアに進出するのはな	工業の種類には何があり、どこで盛んに作ら	仮説(2) 基礎プリント 仮説(1)

	との関わりが不可欠であることを理解する。	どのような努力をしているのか、考えようとしている。	ぜか理解できる。	れているか、円グラフから読み取らせる。	社会科自学ノート 自己評価
7	都市型の生活スタイルが普及し、様々なサービス業が発達してきたことを理解する。	近所の商店街の状況を発表し、日本の商業が抱えている問題点など、考えることができる。	日本の産業の特徴について、まとめることができる。	商品を購入する実際の行動を想起させ、様々な商業施設があることを理解させる。	<b>仮説(1)</b> 社会科自学ノート 自己評価 *章単元の終わりに確認テスト

## 5 本時の指導 (4/7)

参加する意識

### (1) 目標

- ① 日本は、狭い国土を高度に利用し、生産性が高い農業を各地の特色に合わせて行っていることを理解することができる。
- ② 日本は、農産物の自給率が低いいため、輸入に依存する割合が高いが貿易自由化や安全性の問題など、様々な問題を抱えていることに気づくことができる。

### (2) 授業仮説

- ① 学習内容のまとめで色を使い分けたり、アンダーラインなどの重要な所を分かりやすく書くなど、社会科自学ノートを活用すれば、授業に参加する意識が高まるであろう。
- ② 基礎プリントを活用した指導をすれば、日本の農業の特色と課題を理解することができるであろう。

### (3) 展開

段階	学習活動と内容	指導の留意点・教師の支援	●本時の評価 ○個への手だて ★授業仮説の検証
導入 5分	①前時の課題を確認する。	・数名の生徒に発表してもらう。大規模な農業が行われているアメリカとの関連を図るとともに、課題意識を高めさせる。(既習知識や概念を適用)	○前時の課題はアメリカの農業について復習して来ることである。 ○ノートは点検済である。 <b>【検証①社会科自学ノート】</b>
展開	②「日本の土地利用」の地図から、何の割合が大きいかを読み取り、円グラフで確認する。	・生徒が発言したことを黒板に、書き留める。	○学習に遅れる生徒がないように目配り、指示する。
	<b>めあて：日本の農業の特色と課題についてわかる</b>		
展開 40分	③日本の土地利用についてもふれる。稲作は依然として重要な農業であることが、わかる。  ④日本の農業は規模が小さい自作農が多いことなどの特色があることがわかる。	・銘柄米についてはあまり深入りせず、日本の農業の特色について学習を進める。 <b>資料① 米の収穫風景</b> <b>資料② 「石垣産のひとめぼれ」</b> ・既習の外国の農業との比較や身近な農業について、思い出しながら、考えるようにする。	○米袋の表示を見せ、身近なことに触れながら、意欲的に学習に取り組めるように声かけをする。  ★近郊農業，促成栽培と抑制栽培などの基礎的用語を理解させ、板書したことを社会科自学ノート

<p>⑤生産を増やしたり，出荷時期を調整するため，どんな工夫をしているのかを考えさせる。</p> <p>⑥食料自給率が低下しているのはなぜか。</p>	<p>・近郊農業，促成栽培と抑制栽培などを対比させながら，資料を提示しながら理解させる。</p> <p><b>資料③ キャベツの収穫収穫風景</b></p> <p><b>資料④ りんご収穫風景</b></p> <p><b>資料⑤ グラフ</b></p> <p>・食生活の変化，農業政策の転換貿易の自由化について理解している。</p> <p>・様々な角度から考察させる。</p> <p>・学習内容を整理させる。</p>	<p>トに書かせる。</p> <p>★考察したことを社会科自学ノートに書かせる。</p> <p><b>【検証①社会科自学ノート】</b></p> <p>●食糧自給率が低下しているのは、なぜか理解できる。</p> <p>★考察したことを社会科自学ノートに書かせる。</p> <p><b>【検証①社会科自学ノート】</b></p> 
<p>●本時のまとめ 次時の課題</p> 	<p>・学習内容を基礎プリントで，確認しながら行う。</p> <p>・日本の農業の特色と課題について，わかったことを確認する。</p>	<p>○基礎プリントを教科書や社会科ノートを見ながらでも書くことができる。</p> <p><b>【検証②基礎プリント】</b></p> <p>●農産物の貿易自由化が日本の農業経営に与える影響について，考える。</p>
<p>まとめ 5分</p> <p><b>課題：日本の食についての課題は何か。</b></p> 	<p>・学習した内容と関連づけた学習課題を設定，追究する意欲を持たせる。（考えが深まるようにする）</p> <p>・品質や安全性を高めていく等，具体的対応策を考えて来る。（資料配付）</p>	<p>★学習課題を解決するための資料</p> <p>①「牛丼が街から消える！」</p> <p>②「ステーキのふるさと」</p> <p><b>【検証①社会科自学ノート】</b></p> <p>○学習した内容と関連づけた学習課題が難しいと思われる生徒には，感想や気づいたこと等を，書くことも認める。</p>

**6 授業仮説の検証と考察**

授業仮説について，生徒の授業振り返りアンケート（自己評価・感想）と観察をもとに，検証する。表1は生徒の自己評価と観察者（4人）が見た学級全体の評価をまとめたものである。

**表1 観察者による学級全体の評価（対象生徒36人中34人、欠席2人）**

検証の観点	評価基準			検証の結果
	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する	
①社会科自学ノートを活用すれば，授業に参加する意識が高まったか。	・色ペンや図・絵などを使い，工夫し，丁寧に書いている。	・板書したことをそのまま写している。	・社会科自学ノートを忘れた，又は全く書かない。	A 82% (28人) B 18% (6人) C 0% (0人)
②基礎プリントの活用で，日本の農業の特色と課題を理解することができたか。	・基礎プリントを8問以上，正解している。	・基礎プリントを5問以上，正解している。	・基礎プリントを4問以下，正解している。	A 97% (33人) B 3% (1人) C 0% (0人)

(1) 社会科自学ノートを活用することで授業に参加する意識が見られたか。

表1の観察者による学級全体の評価では、「授業に参加する意識について」は、82%の生徒が「十分満足できる」結果となった。色ペンや図・絵などを使い、工夫し丁寧に社会科自学ノートを積極的に活用していた。

資料3の生徒の感想からは、「なんぎじゃなくなった」「わかりやすかった」「勉強のやり方がわかってきた」等の言葉から意欲的な様子が伺える。

意欲的

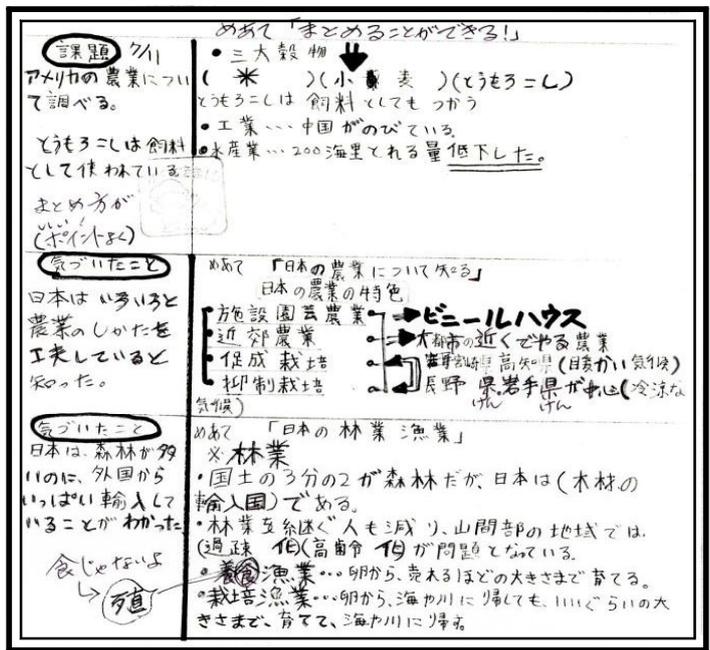
資料4は4月の頃、授業に参加する意識が弱く、まったく社会科自学ノートを書こうとしなかった生徒の本時の自学ノートである。どう書いていいかわからなかったようでもあるが、授業で社会科自学ノートを使ううちに改善されたノートになっている。

本時のめあてや自主学習欄に気づいたことがしっかり書けている、矢印を使い、かなづけされている等、本人なりの努力が見られる。ノートの活用により、意識が高まった一人であり、授業中の一生懸命さが伝わるノートである。

一生懸命

- ・ノートを書くことに少しずつ慣れて、なんぎじゃなくなった。
- ・先生にまとめ方がうまいって言われたからよかった。
- ・アメリカの農業について調べることが宿題だったが、日本の農業と比べて勉強したけど、わかりやすかった。
- ・勉強のやり方がわかってきた。

資料3 生徒の感想



資料4 生徒の社会科自学ノート

(2) 基礎プリントの活用は、本時の学習内容の理解において効果があったか。

表1の観察者による評価では、「基礎プリントを8問以上正解しているか。」に対して、97%(33人)の生徒が十分満足できる結果となった。

図3は基礎プリントの自己評価(4件法)の結果である。「最後まで自分の力で答えることが全部できましたか。」の質問に「全部できた」生徒が79%、「だいたできた」生徒が21%の結果となった。

全部できた

資料5の生徒の感想には「全部書けたからうれしかった」「やる気が出た」「わかりやすかった」等、基礎プリントが学習理解に役立ったことがわかる。

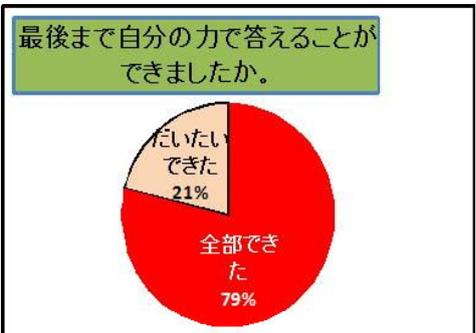


図3 自己評価 (34人)

- ・わからないところは、教科書を見て書いた。全部書けたからうれしかった。
- ・授業でやったことをすぐ思い出すことができ、良かった。
- ・基礎問題のむずかしい漢字に読み仮名がつけられていたから、やる気が出た。

資料5 生徒の感想

## V 研究の結果と考察

研究の考察は、実験群の毎授業後の生徒の振り返りアンケート、自己評価と感想、実験群と統制群の中間・期末テスト、単元テストの結果をもとに検証を行う。「社会科自学ノートと基礎プリントを授業に活用した学級」（3組・4組）と「活用していない学級」（1組・2組）をそれぞれ実験群・統制群とする。また、数名の抽出生徒の検証も取り入れた。

### 1 社会科自学ノートを活用して、学習内容のまとめと自学自習欄を書かせ、教師が点検・評価することで授業に参加する意識が高まったか。

#### (1) 社会科自学ノートについて

図4は「社会科自学ノートの工夫について」の生徒の自己評価の結果である。検証1時と検証8時の比較では、それぞれの工夫について大きな変容が見られる。工夫①の検証8時では、約60%の生徒が「工夫して丁寧に書いた」とある。工夫②の「自主学习欄を書いた」生徒が、47%から71%に上昇した。社会科自学ノートに、わかったこと、気づいたことを書く生徒が増えたことがわかる。工夫③では、「課題や問いに取り組んだ」生徒が検証8時では82%となっている。疑問に感じた学習内容を調べたり、まとめに使うなど、積極的に活用していた。社会科自学ノートを継続させるためにも教師の細かい指導、ノート点検を続けることは重要である。

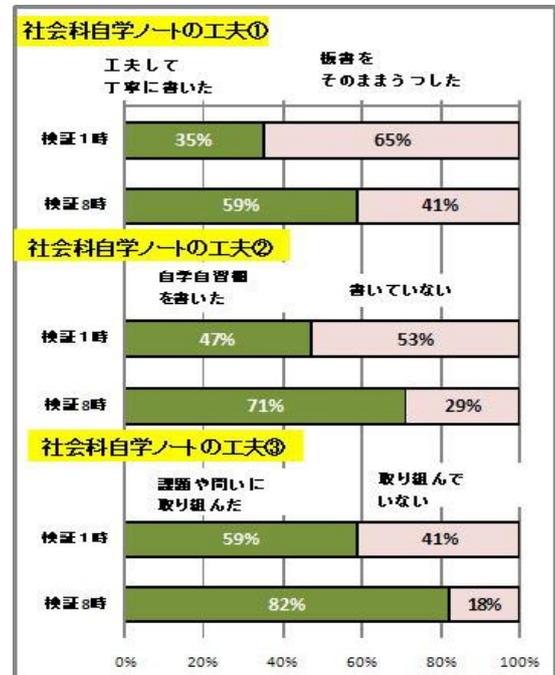


図4 生徒の自己評価（34人）

#### (2) 授業に参加する意識が高まったか。

図5は「学習用具はそろっていますか」についてのアンケートの結果である。検証1時では学習用具がそろっていない生徒が21%から検証8時では6%に減っている。

図6は、生徒の授業に参加する意識を「勉強のやる気は「10」のうちどれくらいですか」で自己評価をさせた結果である。

「10～9」のやる気は、検証1時で15%、検証8時で94%になっている。逆に「4～3」のやる気は、検証1時12%だったが、検証8時では0%という結果になった。生徒が勉強に対して、やる気度が上がったことがわかる。

資料6の生徒の感想からもわかるように、ノート活用の良さがわかり授業に参加する意欲が感じられる。

以上より、自学ノートの活用は授業に参加する意識を高めることに効果があった。

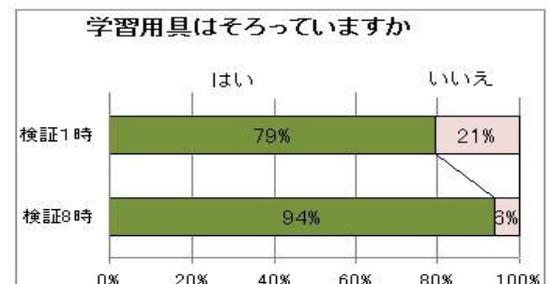


図5 生徒の自己評価（34人）

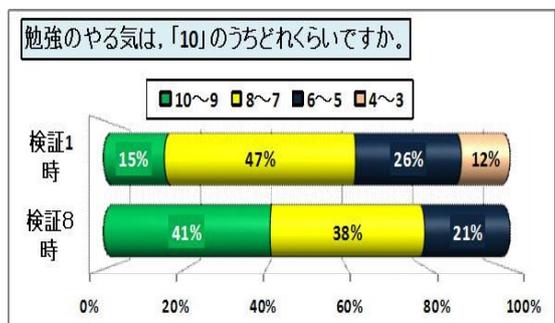


図6 生徒の自己評価（34人）

積極的

やる気度

- ・必要な時にいつでもノートを見ることができるから便利だと思う。
- ・わからないところを自主学習欄に書いたら、先生から調べ方についてのアドバイスがあった。勉強のやり方がわかった感じだった。
- ・自由欄にいっぱい頑張って書いたら、ほめられた。うれしかったです。
- ・イラストで書くことが好きなので、色ペンを使ったりして、やっていて楽しい。

#### 資料6 生徒の感想

## 2 基礎プリントを活用し、本時の基礎的内容をまとめた問題を解かせ復習で使うことは、基礎・基本の定着につながったか。

図7は、基礎プリントの活用についての自己評価の結果である。「基礎プリントはどのくらい書きましたか」に対して、「8問以上」書けた生徒は、検証1時では35%、検証8時では65%に増えている。「4問以下」の生徒は0%となっている。「重要な用語について分かるようになりましたか」に対して、「十分わかった」生徒が検証1時では12%、検証8時では38%に増えている。「あまりわからない」生徒が検証1時では12%、検証8時では0%となっている。基礎プリントが解けるようになり、用語等の理解につながっている。

図8は実験群（3・4組）と統制群（1・2組）の各テストの平均点の推移を表したものである。実験群では、基礎プリントを活用し、統制群では特に活用しなかった。中間テストでは、統制群が1.3点高い。しかし、中間テスト以降、基礎プリントを授業で活用した実験群は、期末テストで9.1点、単元テストで13.1点と統制群より高くなった。基礎プリントの活用の成果が出ている。ただ、単元テストの平均点が、両群とも低かったことに関しては、学習から時間が経過していたこと、夏休み前日の集中力が切れていたことなど、条件が悪かったことや単元テストの難易度が高かったことが考えられる。

資料7の生徒の感想からは、「分かりやすかった」「勉強がしやすかった」等、基礎プリント活用の効果が見られる。特に、授業が進むにつれて、今までの学習の取り組み状況が良くない下位の生徒が、基礎プリントをやっていく中で、学習のやり方がわかり、楽しさを実感でき、やってみようとする積極的な姿勢が見られた。

以上より、基礎プリントを授業に取り入れ、復習等で活用したことは、基礎・基本の定着につながったと考える。

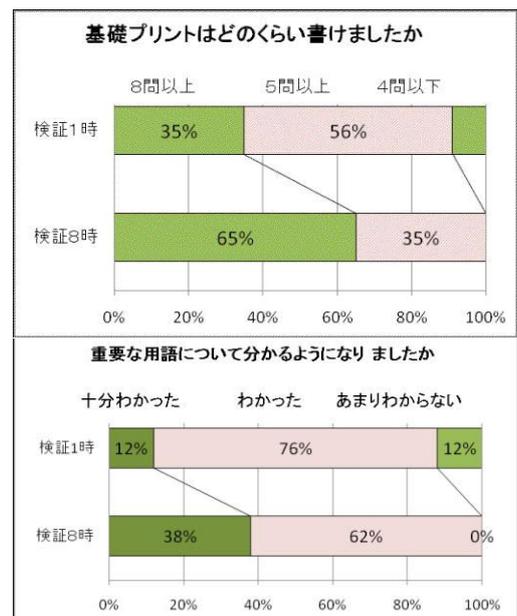


図7 生徒の自己評価（34人）

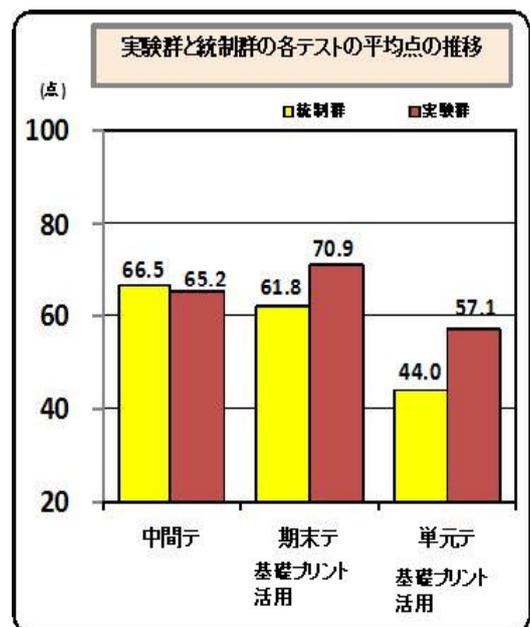


図8 各テストの平均点の推移（144人）

・基礎プリントは、かなづけされていたから分かりやすかった。  
 ・わからないところは、教科書を見て書いたけど、やる気が出てきた。  
 ・基礎プリントをやっていたら、授業でやったことが、少しずつ蘇ってきて書けた。

資料7 生徒の感想

3 社会科自学ノートと基礎プリントの活用を通して、授業に参加する意識が高まり、基礎・基本の定着が図られたか。

楽しい

図9は、事前4月と事後7月のアンケートの結果である。「社会科の授業は楽しいですか。」に対して、「楽しい」と答えた生徒は、事前26%、事後は72%で、大幅に増えている。基礎プリントの活用が、生徒の授業理解に結びつき、社会科の授業が楽しいと答えた生徒が増えたと考える。

やる気

図10「どんな時にやる気が出ましたか。」に対して、「先生に褒められた時」と答えた生徒は、事前11.5%から事後は32.9%に増え、「勉強していることが分かった時」と答えた生徒は事前は、9.9%、事後は38.6%に増えた。ノート活用での教師のコメントや基礎プリント活用による授業理解が生徒のやる気を高めていることがわかる。

以上のことから、事前(4月)、事後(7月)、アンケートの結果と研究の考察1, 2から、社会科自学ノートと基礎プリントの活用は、授業に参加する意識が高まり、基礎基本の定着を図ることに効果があった。

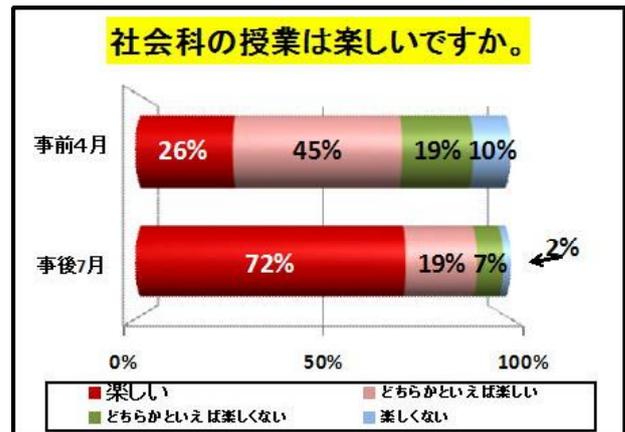


図9 生徒実態アンケート(72人)

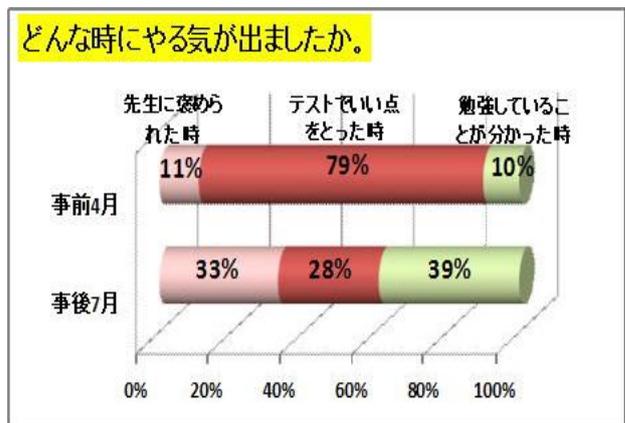


図10 生徒実態アンケート(72人)

VI 研究の成果と今後の課題と成果

1 研究の成果

- (1) 社会科自学ノートの活用で、学習方法がわかり、学習したことや課題まとめができるようになった(V-1-(1))。
- (2) 基礎プリントの活用によって、授業が楽しい、やる気が出てきた生徒が増えた。特に、下位の生徒に顕著に見られた(II-2)。

2 今後の課題

- (1) 社会科自学ノートの自学自習欄の内容を深めさせるため、生徒がより興味・関心が持てるような資料の提供。
- (2) 基礎プリントの内容の検討。

**〈主な参考文献〉**

有田和正著	『新ノート指導の技術』	明治図書	2008	年
飛田政彦編著	『社会科の基礎学力を育てる授業づくり』	明治図書	2007	年
佐島 群巳著	『社会科授業づくりの基礎・基本』	明治図書	1985	年
島根大学教育学部附属中学校著	『自ら学ぶ力を育てる学習指導』		1988	年